WIDE COLOU

フェアチャイルド

F-105G

☆特集☆

墜落したソ連の軍事衛星の背景と全貌

ルポ：韓国に飛来したF-15イーグル

世界最強のアメリカ海軍航空隊の現況

'78 APRIL

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

EAGLES PARTICIPATING IN "CORONET CONDOR"
韓国に派遣されたF-15イーグル

Eight F-15 Eagles of the 1st Tactical Fighter Wing, Langley AB, Va., landed at Osan on January 24, 1978, to participate in "Coronet Condor", a joint ROK/U.S. exercise.

嘉手納基地に到着後エプロンに向けタキシングするF-15B。

A F-15B was among the team.

F-15A after arrival.

エプロンで翼を休めるF-15A。胴体下面と主翼下面に計3個の増槽を装備している。

The two-seat F-15 has officially been called F-15B since January 1, 1978.

△▽シェルターに格納されたF-15A。今回はF-15AとF-15Bが計8機派遣された。B型は複座のTF-15Bを今年の1月1日から改称したものである。

デモフライト前の整備を受けるF-15A。

F-15A in maintenance in preparation for a demonstration flight, 26 Jan.

F-15A also in maintenance.

シェルター内で整備中のF-15A。

F-4Es of 36th TFS, 51st COMPW, stationed at Osan. They also participate in the coming ROK/US joint exercise.

このページは烏山基地に配備されている，第51混成連隊（51stCOMPW）第36戦術戦闘飛行隊（36thTFS）所属のF-4E。

フランス空軍のミラージュF.1

MIRAGE F.1 OF FRENCH AIR FORCE

(Photos: Herve de VINCK)

Mirage F.1C of 2/5 "Ile de France" Sqdn

▲Note the "Jean of Arc" 1/5 Sqdn tail marking

このページは第5ウイング第1飛行隊所属のミラージュF.1C。

上 タキシングするフランス空軍第5ウイング所属のミラージュF.1C。

F.1C of 1/5 "VENDéE" Sqdn

Note the R 550 "Magic" missile

着陸する第5ウイング第1飛行隊所属のミラージュF.1C。主翼両端にR550"マジック"ミサイルを装備している。

"Ile de France" F.1C landing with inert R 550 "Magic" missiles

主翼にR550"マジック"ミサイルを装備して着陸する第5ウイング第2飛行隊所属のミラージュF.1C。

35
MARINE
NAVY
76
NAVY
316

VMFA-531
2252
MARINES
02
EA
EC

第201戦闘飛行隊(VF-201)所属のF-4N。

F-4N of VF-201 (Photo: Peter Greve)

第121戦闘飛行隊(VF-121)所属のF-4J。

F-4J of VF-121 (Photo: R.P. Lutz Jr)

F-111D of 522nd TFS, 27th TFW (Photo: R.F. Kling)

Canadair Sabre with a civil register number

Photo: Peter Grevel

民間ナンバーを付けた"カナデア・セイバー"

Photo: Peter Grevel

Canadair Sabre in a civilian service Photo: Peter Greve

20ページと同じフライト・システムズ社で使用している。もとカナダ空軍のカナディア・セイバー。

着陸する第5ウイング第2飛行隊所属の　ミラージュF 1C　胴体下の中央パイロンにマトラ530ミサイルを装備している　前脚前方の胴体下に見えるのは着陸灯

F 1C of [illegible] with a Matra 530 missile on the central under fuselage. Note the position of landing light under nose.

飛 前の最 チェ クをする イロ と整備員

P ... check

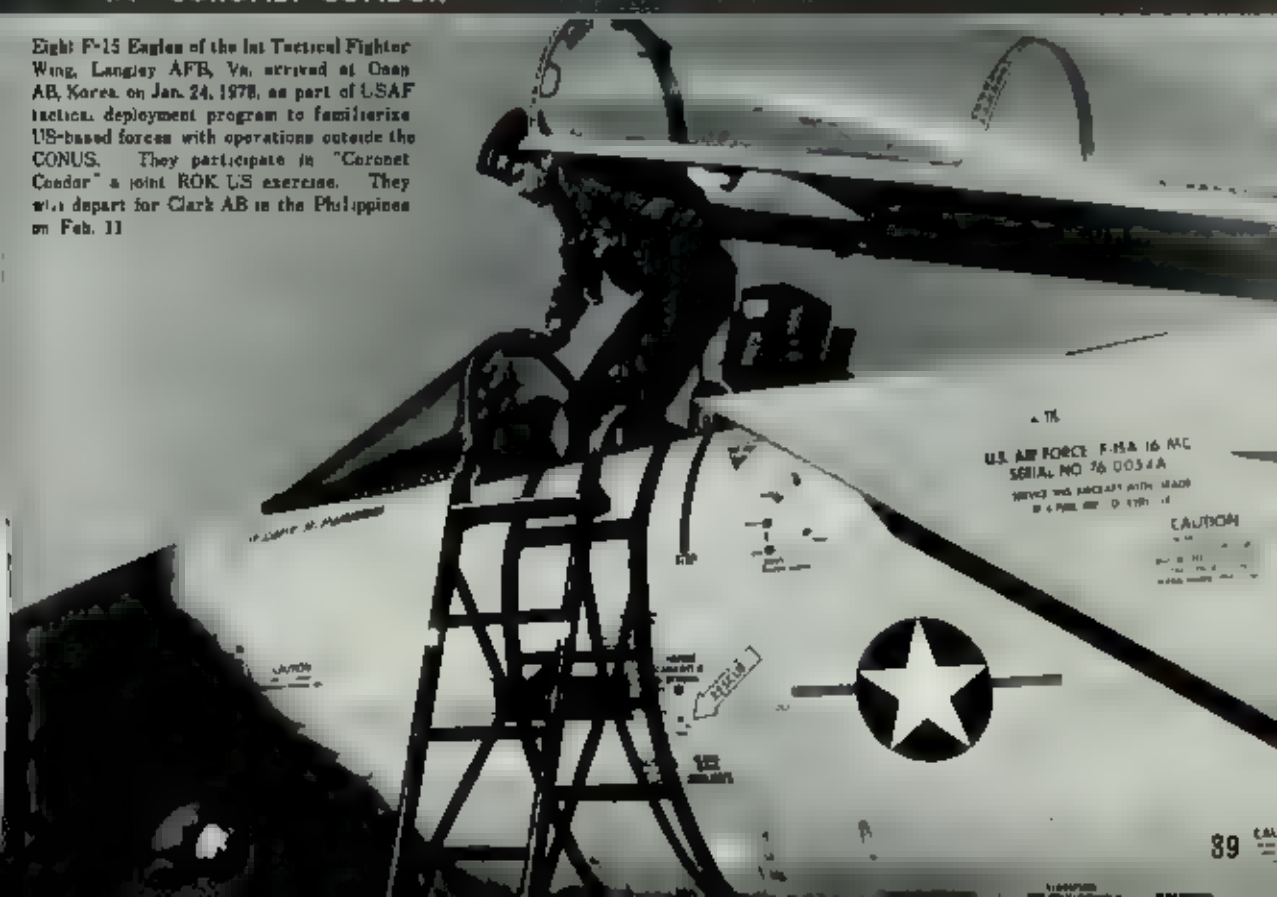
飛 前のコクピ ト 座る司令官

Commanding ... aboard ... of the ... wing ...

去る1月24日から2月11日まで、韓国の烏山(オーサン)基地へ、米空軍第1戦術戦闘連隊(1stTFW ラングレイ基地)所属のF-15戦闘機8機が、米空軍関係者がこの新鋭機に慣れるためと、米韓合同演習に参加するため派遣された。

韓国に派遣された第1戦術戦闘連隊のF-15イーグル

F-15 EAGLES PARTICIPATING IN "CORONET CONDOR"

Eight F-15 Eagles of the 1st Tactical Fighter Wing, Langley AFB, Va. arrived at Osan AB, Korea on Jan. 24, 1978, as part of USAF tactical deployment program to familiarize US-based forces with operations outside the CONUS. They participate in "Coronet Condor" a joint ROK-US exercise. They will depart for Clark AB in the Philippines on Feb. 11

基地上空で編隊解散するF-15。
Arrival Formation breaks over Osan AB.

第1戦術戦闘連隊のエンブレム。
1st TFW emblem.

バージニア州ラングレイ基地からハワイを経由した総飛行時間20時間の長旅を終えて烏山基地へ着陸したF-15A。

They took 9.5 hours from Langley to Hawaii, 10.5 hours from Hawaii to Osan. A 24 hours' crew rest at Hawaii.

着陸後エプロンに向けタキシングするF-15A。胴体下と主翼下に600ガロン増槽を装備して，ハワイからは途中4回の空中給油を受けて飛来した。

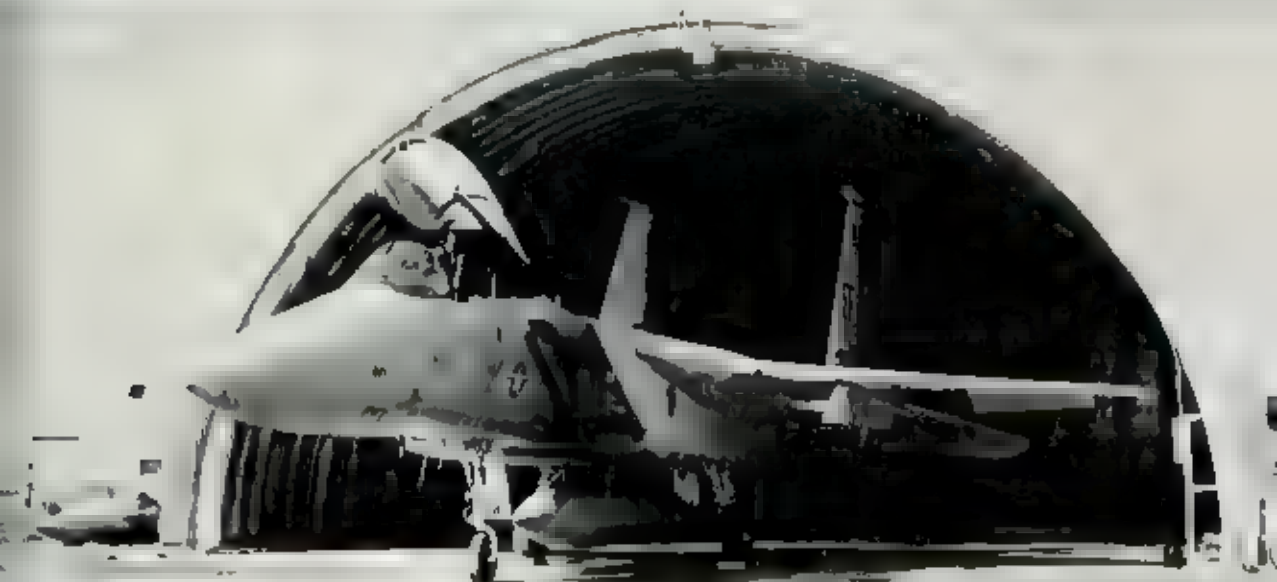
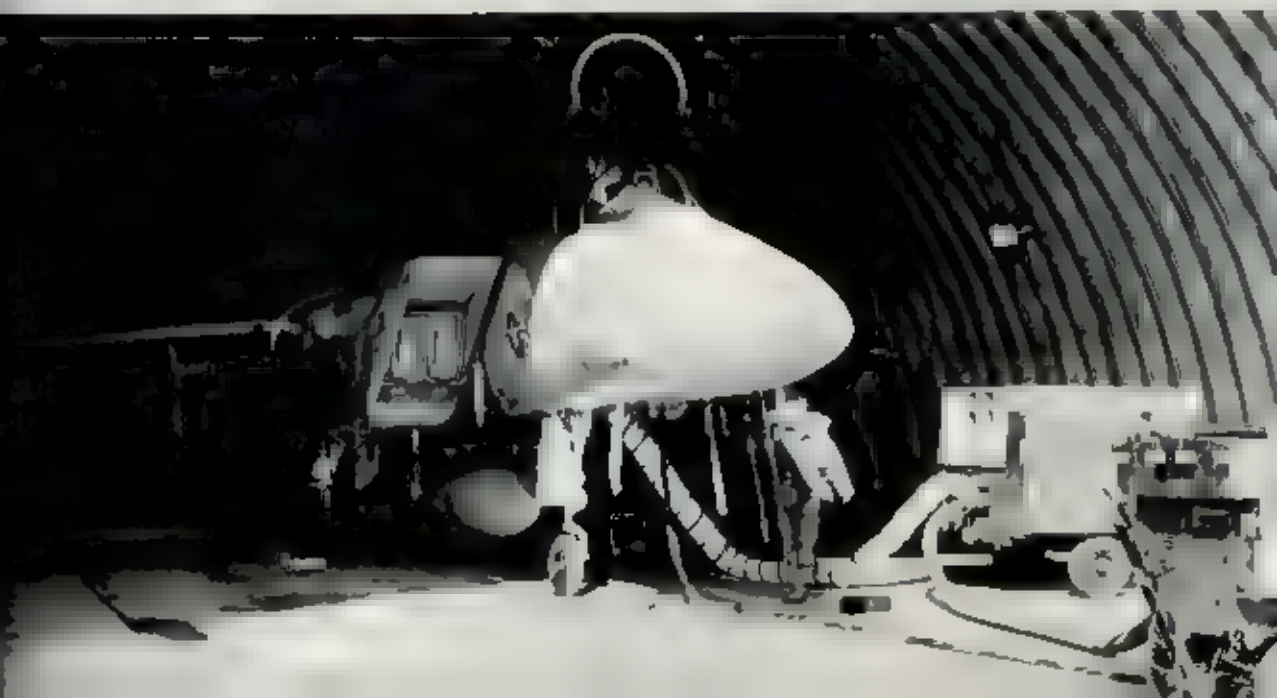
Carrying three "bags" 600 Gal auxiliary tank, they had four times k air-refueling on the way from Hawaii.

シェルターに格納されたＦ-15Ａ。 At shelter

エプロンに並ぶＦ-15。手前の機体はＦ-15Ｂで、空軍では今年１月１日から複座のＴＦ-15ＡをＦ-15Ｂと改称している。
F-15B. From Jan. 1 1978, the two-seat F-15 has officially been called F-15B.

[illegible] look very well.

デモフライト前の各部の点検を受けるF-15A。

F-15A in maintenance, maintenance in [illegible] of the short-term deployment program.

中と下はシェルター内で翼を休めるF-15A。
F-15A in shelter

航空自衛隊松島基地の
T-2練習機

松島基地にある第21飛行隊は唯一のT-2の実働部隊であり、第1、3、6、7号機を除く48号機までの44機全部がこの飛行隊に配属されている。このうち24号機までは無武装の前期生産型、25号機からはバルカン砲装備の後期型で、飛行訓練には前期型、空対空射撃主体の訓練には後期型が使用されている。

Now, a total of 44 T-2s are being assigned to the 21st Squadron, Matsushima AB. For flight training, they use the early version (No.8-24) which has no armament. For air-to-air combat training, they use the later version (No.25-48) equipped with Vulcans.

T-2 SUPERSONIC JET TRAINER AT JASDF MATSUSHIMA BASE
(Photos by Y. Todo)

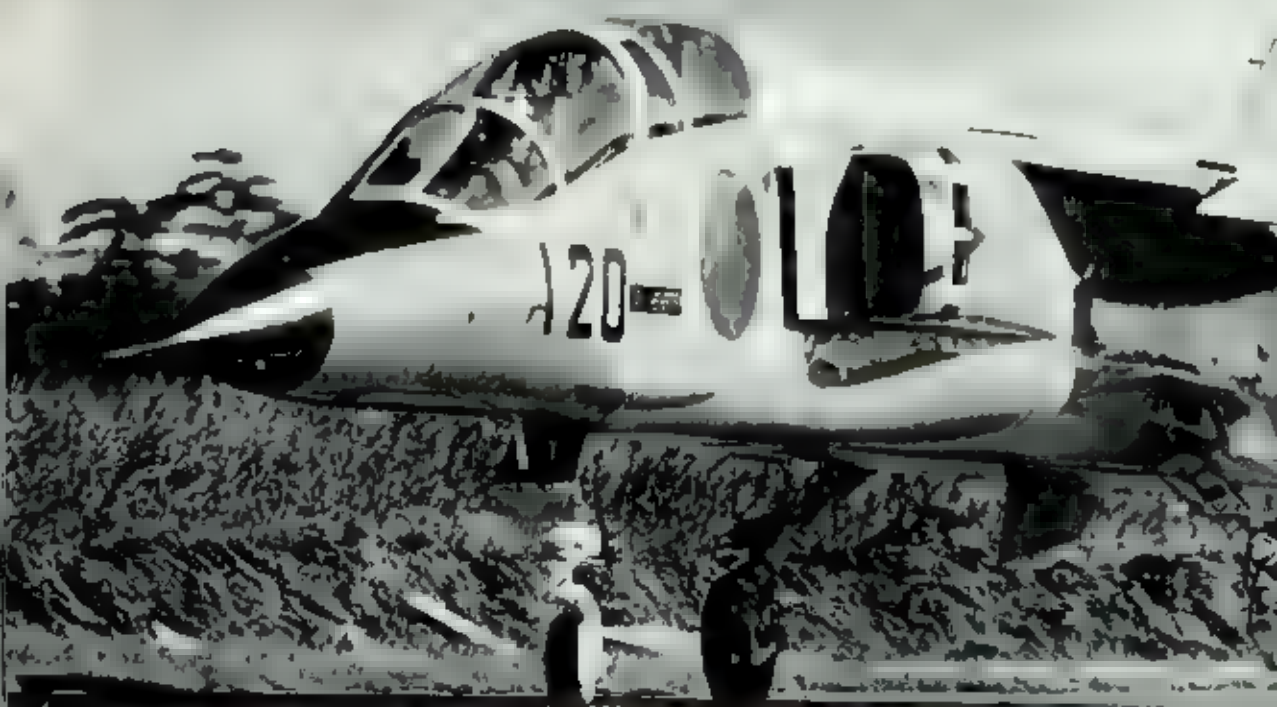
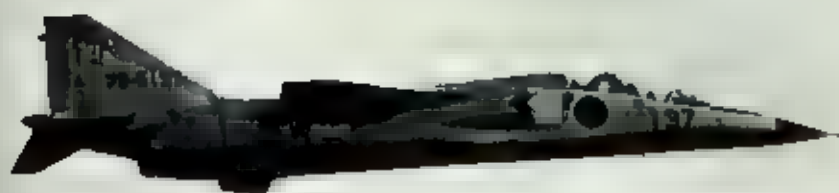
このページ上は編隊着陸する後期型のT-2。下はエプロンでエンジン始動する後期型。

編隊着陸する後期型。
Later version in formation landing.

着陸後ドラッグシュートを切り離し、エプロンに向けてタキシング中の後期型T-2。

訓練飛行に出発前、コクピットで最終チェックをするパイロット。
Pre-flight check.

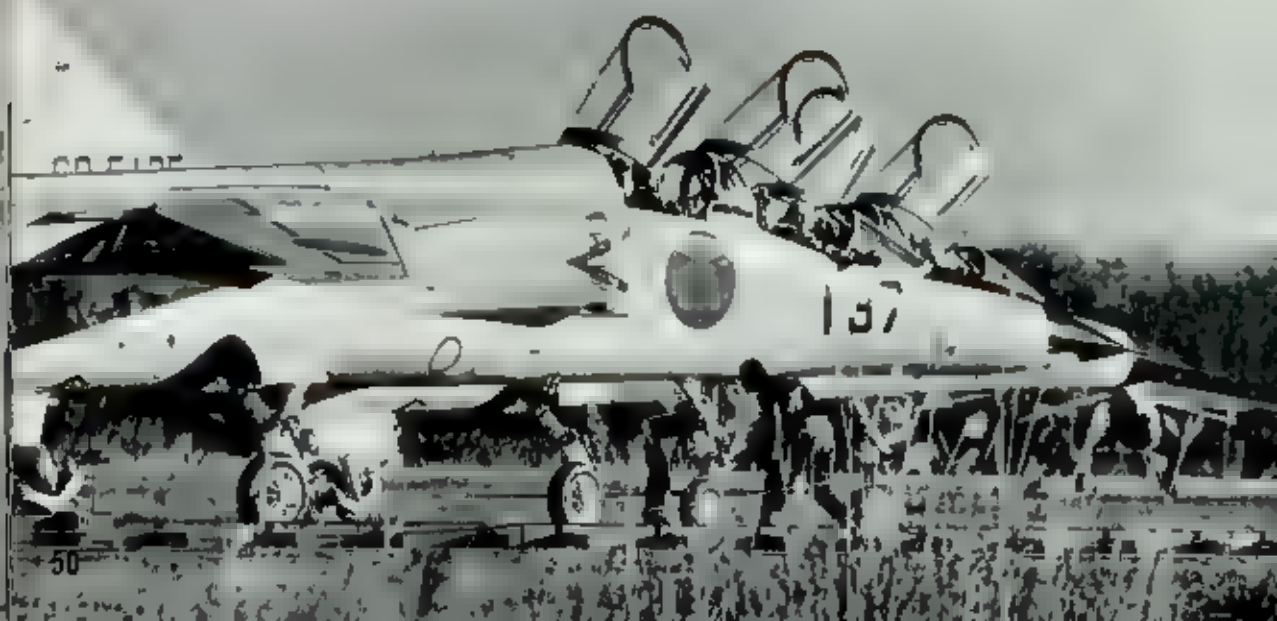
両主翼下面・2.75インチ×19発を搭載できるＬＡＵ-3Aロケット弾ポットを装備して着陸するＴ-2生産最終号機。

The last production model T-2 capable of carrying nineteen 2.75 inch LAU-3A rockets.

訓練飛行に向け編隊離陸するT-2後期型。
Later version.

訓練飛行を終えドラッグシュートを引いて着陸したT-2前期型。前期型は機首の一部と垂直尾翼をオレンジ色で塗装している。
Early version T-2 landing with help of a dragchute.
yellow paint on the nose and tail.

主脚収容部扉を開けてフライパスするT-2前期型。 Fly-pass.

T-2 later versions on apron.

タキシーウェイ端でバルカン砲の安全ピンを抜くT-2。
The Vulcan safety pin is pulled off when the plane comes to the taxiway end.

△アジア、南米、中東、アフリカなどで「空とぶ荷車馬」として重宝がられているC-130ハーキュリーズ輸送機は、現在世界42ヵ国で運用されている。写真は最近納入されたボリビア向けC-130H。
▷デルタ航空はこのほど、ロッキード・カリフォルニア社に対して長距離型L-1011-500型5機を発注した。米国の航空会社が同型機を発注したのはこれが初めてである。
▽ホーク地上攻撃/練習機はフィンランドから50機の発注を受けているが、写真は4週間の中東7ヵ国のデモフライトに向け離陸するホーク。

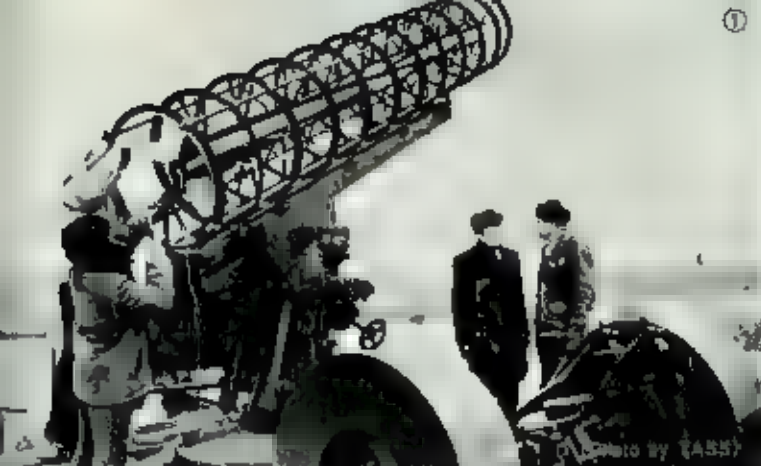
▷ Delta Airlines put in a order with Lockheed-California for five L-1011-500 long range transports.

▽ The Hawk Ground Attack/Trainer aircraft of which 50 were recently ordered by Finland, leaves for a 4 week sales tour of seven Middle East countries.

ソ連の新型ジェット輸送機An-72。An-72は昨年12月22日に初飛行に成功しており、その後飛行テストが行なわれている。同機は現在使用中のAn-25の後継機として開発されたもので、約5tの貨物を搭載でき、不整地での運用を考えエンジンは主翼上部に装備されている。

(Photo by TASS)

Soviet jet transport An-72, the modern transport to replace An-26 now in use. This on-the-wing-placed engine plane is capable of carrying about five tons of cargo.

(Photo by TASS)

①発射準備中のソ連の気象観測用ミサイル"MMR-6"。②MMR-6気象観測用ミサイルの発射された瞬間。③打ち上げ前の地上テストをするソ連の地質調査衛星"VERTICAL-6"。④⑤高山地帯で活躍するソ連の救急用ヘリコプタ。④はMi-2、⑤はMi-4。

① Soviet meteorological missile, MMR-6 "Dart" ② Moment the MMR-6 was fired. ③ Geophysical missile "VERTICAL-6" in test ④+⑤ Soviet rescue helicopters. ④ Mi-2, ⑤ Mi-4.

スナップだより

昨年末厚木基地に飛来した米海兵隊で使用している VC-118B （相模原市　橋本　隆）。

VC-118B of US Marines, caught in a camera at Atsugi NS, 1977 (T. Hashimoto, Tokyo)

1月29日羽田空港を離陸する，カナダ国防軍のB.707-347C。同機はウエスタン航空で使用していた機体である（市川市　小坂健治）。

Canadian Defense Force' B.707-347C, Haneda, Jan 29. This has once been used by Western Airlines. (K. Kosaka, Chiba)

1月4日羽田空港に飛来した米空軍のVC-135B（市川市　小坂健治）。
USAF's VC-135B, Haneda, Jan 4. (K. Kosaka, Chiba)

SNAPSHOTS

カラーで見る

エクスカリバーIII世

"Little Red Bird" which color scheme Captain Blair expressed satisfaction himself

Excalibur III completely restored in a state when it crossed the North Pole, 1951

スミソニアン航空博物館で、チャールズF.ブレアが1951年5月、北極越えの飛行を行なった当時の塗装にして復元されたエクスカリバーIII。胴体のマークは風見鶏である。操縦席内の計器類も完全に復元された

グンゼ産業Mr.カラー
ハイモデリングのための塗装マニュアル

① F-4B、第321海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA-321）所属機

McDONNEL DOUGLAS

② F-4J、第25海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA-25）所属機

F-4B/J/EJ PHANTOM II

配合カイドの見かた

MG
VMFA-321
1002
MARINES

12
DW
4781
MARINES

77-8401

5. F-4EJ 航空自衛隊第8航空団第304飛行隊所属機

© K. Hashimoto

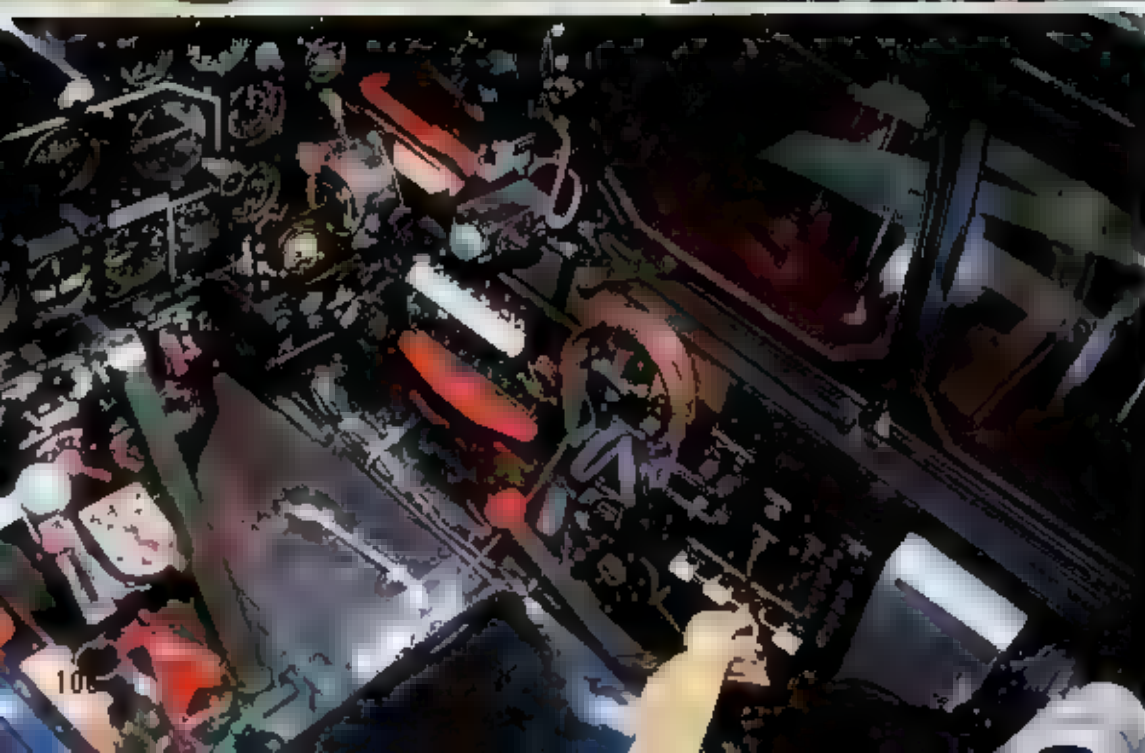
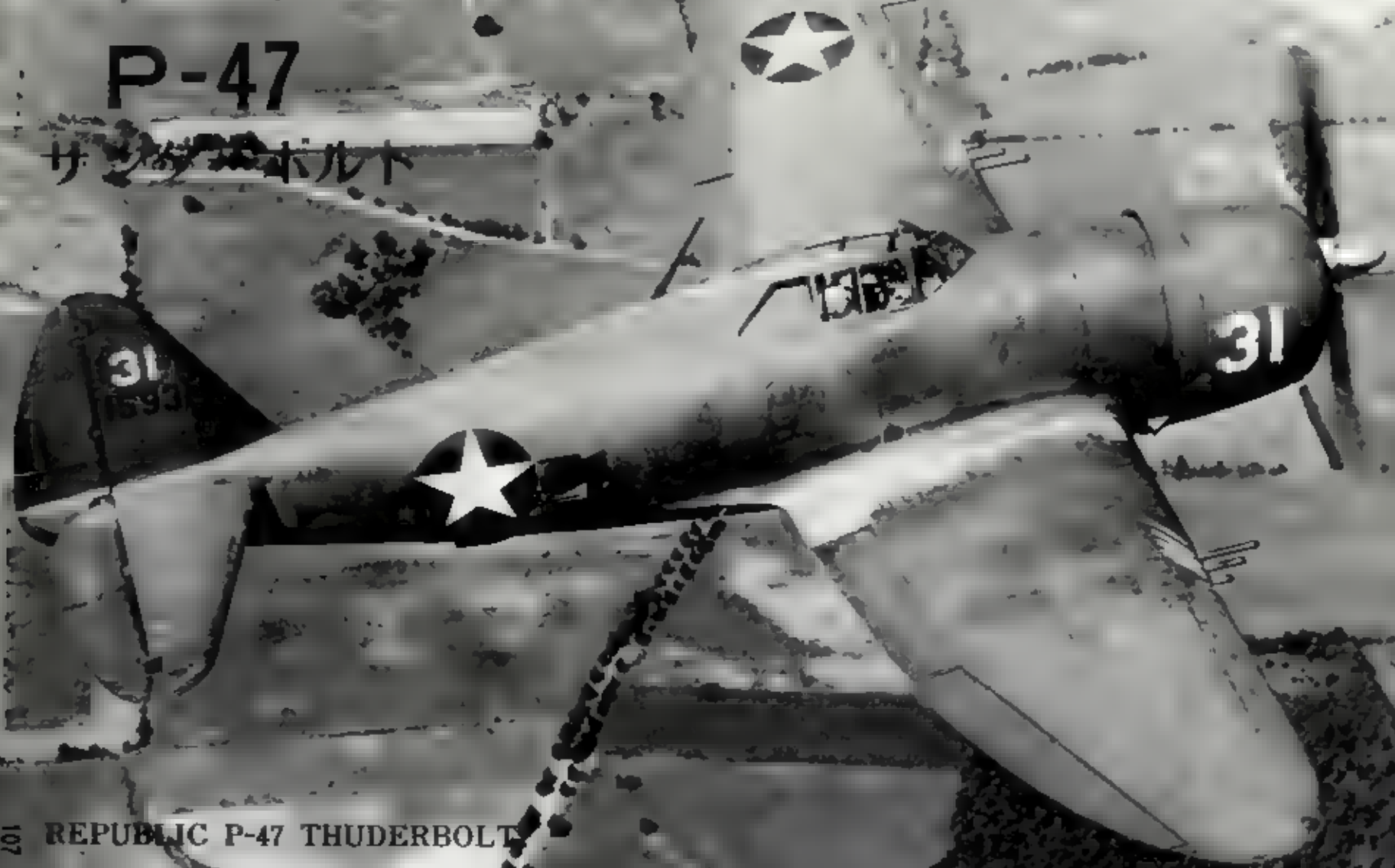
第25 海兵戦闘攻撃飛行隊のF-4J

GUNZE SANGYO

グンゼ産業Mr.カラー

ハイモデリングのための塗装マニュアル

マクダネル／ダグラスF-4ファントムII の塗装

スミソニア
ン航空博物
で復元された
エクスカ
ーIIIの操縦
機内の計器
完成 たば
の新品とい
う感 今
て 実
飛行してい
当時のもの
見えるよう
配慮して造
れたという。

写真上段
正面計器板
中段右は操
席左側面
の写真は右
面である
縦席内の計
類は 軍用
の場合の
C
と 部変
れている

米空軍の第二次大戦の重量級戦闘機であるP-47サンダーボルトの珍らしい写真を紹介することにしよう。

前ページはサンダーボルトの最初の生産型であるP-47B RA (41-5931)。P-47Bの生産は1942年初めに開始され、同年秋にもこれは実戦部隊に引き渡された。写真の機体は1942年11月に第56戦闘大隊（56th FG）に装備されている。

〔上〕同じく欧州の第8空軍第355戦闘大隊（355th FG）に装備されたP-47D。

〔下〕P-47B RAの1機であるが、この機体では通常の自型と異なり、視界改善のために、操縦席後方に透明風防部を新設しているのに注意。

〔上〕欧州戦線の第8空軍第78戦闘大隊（78th FG）の所属機であるP-47D-23-RE。第78戦闘大隊は1943年4月からP-47Dを受領して戦闘していた。写真はB-17爆撃機を護衛してフランス上空を飛行中のもの。機体のコードレターはMX-G。
〔下〕両主翼下に500-lb爆弾を吊してフランスの前進基地から出撃する第9空軍戦闘機部隊のP-47D。1943年から44年にかけての冬期間で、このころ第8、第9空軍の戦闘機は国籍記章を両主翼下面に大きく描いていた。P-47Dの武装は主翼に12.7mm機銃を計8挺。爆弾搭載量は初期のP-47D-22では500lb×1、後期の-25では1,000lb×2であった。

（上）第1戦術空軍（1st TAC）に編入されてフランスへ派遣された第9空軍第371戦闘大隊（371st FG）第404戦闘中隊（404th FS）のP-47D-27-RA。第371戦闘大隊はP-47Dを装備して1944年4月からフランス海岸のドイツ軍陣地への作戦に参加、1945年3月、最後のつめに入った連合軍の先ぽうとして南部ドイツへ進出して作戦している部隊感状（DLC）受賞の戦闘機隊である。「9Q」のコードレターを使用、装備機のP-47Dは機首カウリング前方に赤い帯を巻いていた。写真は主翼下に爆弾を吊して出撃するところ。

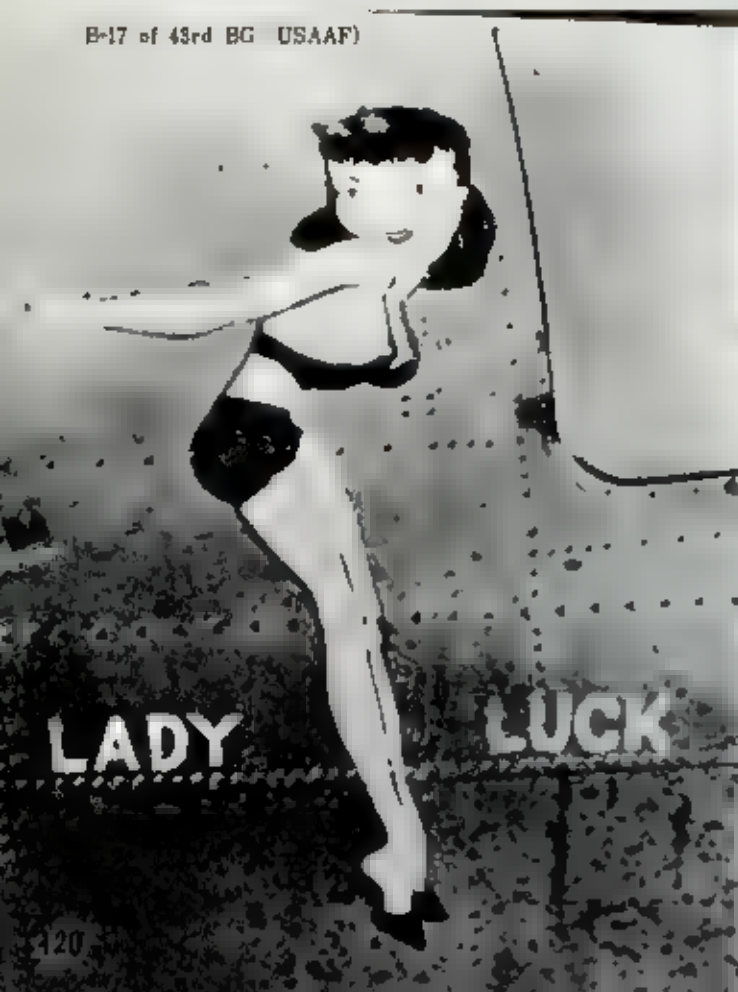
（下）北アフリカ戦線で整備中の第12空軍のP-47D。第12空軍では7個戦闘大隊がP-47を装備して闘っている。

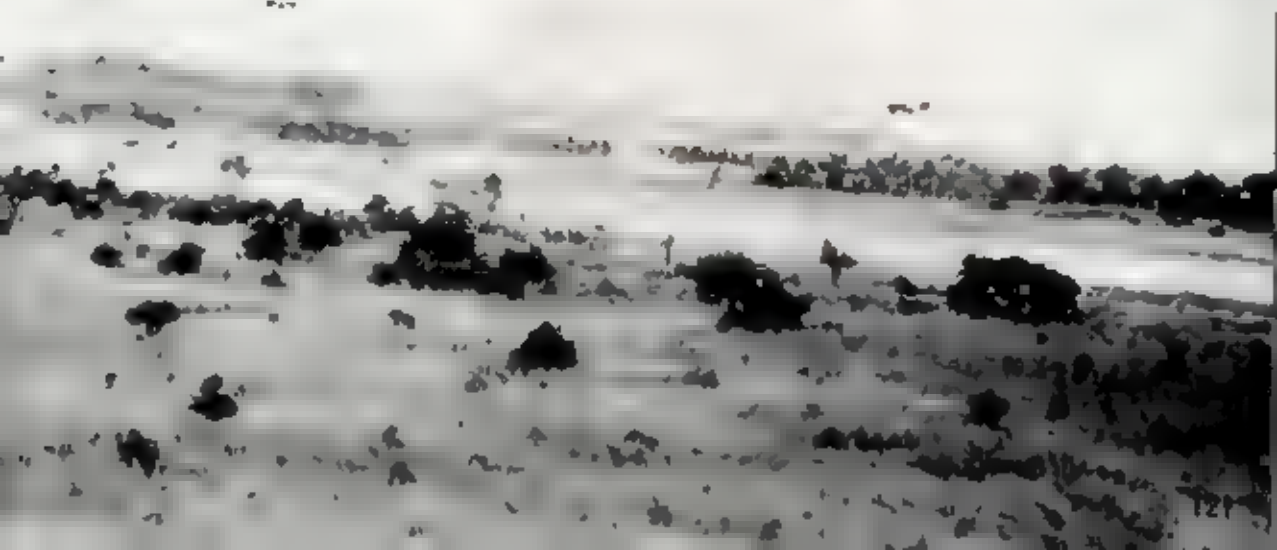
（上）ニューギニアのベロー・フィールドで整備中のP-47D。第5空軍さん下の戦闘機部隊に装備された1機と思われる。両主翼下に吊してあるのは後端に口を開いた煙幕を張るためのスモークジェネレーティング・タンクである。レザーバック操縦席のP-47Dで、風防上端のバックミラーなど細部がよくわかる写真である。

（下）前ページ上と同じく第1戦術空軍として東フランスへ派遣された第371戦闘大隊（371st FG）のP-47D。雪のエプロンでエンジンを始動、滑走路に向ってタキシングを開始したところである。主翼下には500lb爆弾を装備している。

B-17 of 43rd BG (USAAF)

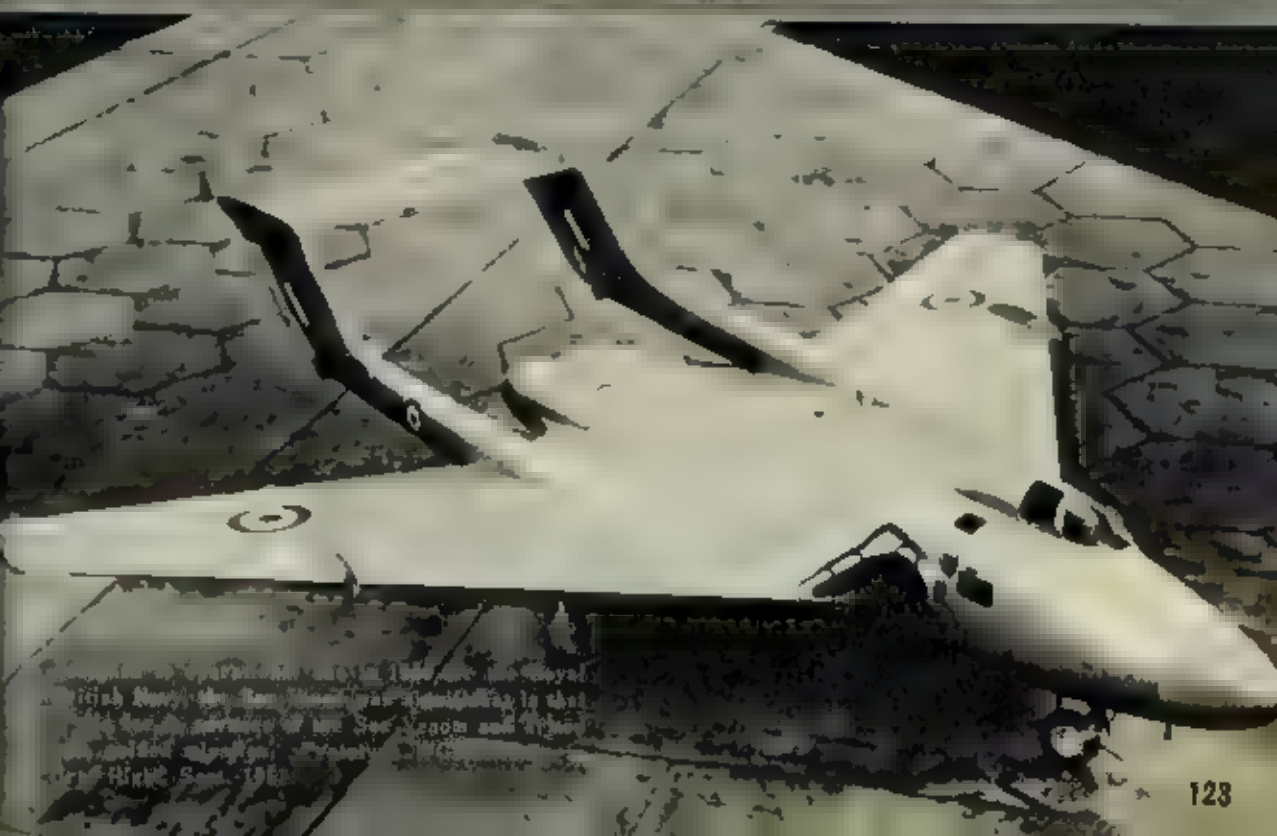
【上・下】2枚とも1943年、ニューギニア方面に派遣されていた第43爆撃大隊（43rd BG）のB-17。"ザ・ジョーカーズ・ワイルド"号（上）と"パナマ・ハッティ"号。第43爆撃大隊は1942年8月より第5空軍のさん下となって、B-17のE型とF型を装備して戦闘に参加したが、いずれも機体に写真のような個性的な派手なマークをつけていた。

B-17 of 43rd BG, New Guinea, 1943 (USAAF)

「左下」第43爆撃大隊（43rdBG）のB-17E "レディ・フィンガー"号 1943年ニューギニアにて「下」第312爆撃大隊（312nd BG）所属のA-20H 1945年1月7日フィリピンのクラーク・フィールドを攻撃中のシーンである。この日A-20Hが2波にわたって同基地を襲ったが、写真はその1波の攻撃

A-20H Havocs of 312th BG attack on Clark Field, 7 Jan. 1945 T.H.Jones

（147ページ本文記事参照）

ジェット戦闘機の先輩たち

デハビランドD.H.110 シービクセン

シーベノムにつづいて1960年ころからイギリス海軍航空隊に装備された双発複座の全天候艦上戦闘機デハビランド・シービクセン。写真上と下は1951年9月26日に初飛行した原型1号機のWG236。

XJ474, first mass production plane, WG236

prototype No.1 plane

右ページ上はF（AW）1の量産3号機であるXJ 476、その下はXJ 524機で、のちにF（AW）2に改造されている。上の機体の翼下はロケット弾ランチャー。

このページのトップはF（AW）1の量産1号機であるXJ 474、上は後方から見た原型1号機（WG236）、右は量産2号機のXJ475である。

量産型では、原型でまるみをおびていたレドーム先端がするどくとがったものとなり、主翼が動力折りたたみ式となった。

双発複座のシービクセンは、英海軍航空隊で初めての全天候艦戦で、諸性能も同時代の陸上ジェット戦闘機にひけをとらなかった。

XJ476, third production model of F(AW)1, and J526 (later F(AW)2). Note the rocket launcher.

XJ475, the second production model. The two-seat, twin-engined Sea Vixen was the first heavy-class naval aircraft enough comparable to ground jet aircraft then in service.

シービクセンは最初の生産型F(AW)1が114機生産され、つづいてデハビランド・ファイアストリークAAMに代えてレッドトップAAMを積めるように改造されたF(AW)2が29機生産された。F(AW)2では燃料搭載量をふやすために、ブームが大きなものに改造されて、主翼の前方に大きく延びている。F(AW)1の67機も、のちにF(AW)2に改造された。

右の写真はそのF(AW)1からF(AW)2に改造された1機(XJ524)で、大きくなったブームがよくわかる。

XJ579, as remodified from F(AW)1 to F(AW)2. Wings were folded with auxiliary tanks remaining as they were. Note the Redtop AAM.

〔F(AW)2データ〕

エンジン：ロールスロイス・エイボンMk208ターボジェット(5,100kg)×2、全幅15.54m、全長16.94m、全高3.28m、翼面積60.2m²、全備重量18,875kg、最大速度1,110Km/h、上昇率3,050m/分、実用上昇限度21,792m。

The Sea Vixen was produced 114 in number in the F(AW)1 production phase; 29 in the F(AW)2 phase. Sixty-seven Sea Vixen's produced in the F(AW)1 phase were later remodified into the F(AW)2 spec. Pictured is the modified one.

写真左もF（AW）1からF（AW）2に改造された1機（XJ578）。主翼が増槽を装備したまま折りたたまれている。主翼の内側パイロンに装備しているのはレッドトップAAM。下の写真2枚はF（AW）1（上）とF（AW）2で、両型の相違がよくわかる。